

金原委員のご意見

H29.3.9 聴取

新しく原発を造ることと、今あるものをどうするかということは別に考えた方がよい。

代替エネルギーが確保できないうちに、原発を止めれば、電気料金も上がり、産業や市民生活に大きな影響が出る。

今ある原発は早く再稼働させる、またそれだけでなく、古くなった原発の廃炉対策もしっかりやらなければいけない。

廃炉には、多額の費用がかかる。この費用がそのまま電気料金に跳ね返らないように、廃炉費用を捻出するためにも、今ある原発については、高い安全性が確認できれば、動かしていくべきだと思う。

もちろん、万一、事故が発生してもメルトダウンしないような安全対策、また使用済核燃料の処分の問題など、国や電力会社には、しっかり取り組んでもらいたい。

また、これから新しく原発を造っていくことは考えられないが、石油、石炭の火力発電は温室効果ガスを大量に排出し、また太陽光や風力による発電は、気象条件に左右される不安定なものである。

これらに代わる新たなエネルギーの開発や、太陽光発電による電気を貯めておけるような大型蓄電器の開発など進めていかなければならない。

県内は温泉も多く、地熱の利用も考えられるし、日本周辺の海域ではメタンハイドレートも多く埋蔵されていると言われていたので、こうした資源の利用も考えて、より安全な電力を開発することが理想だと思う。